



第二十一特別根拠地隊

自昭和十七年四月一日
至昭和十七年四月三十日

第二十一特別根拠地隊戦時日誌

第二十一特別根拠地隊



1695

自昭和十七年四月一日
至昭和十七年四月三日
第三十特別根據地隊戰時日誌

一 經過

(一) 一般情勢

旧蘭印、ジャワヲ本據トシ執拗ニ我進攻ヲ阻止セル敵米英蘭聯合陸
海空軍兵力ハ三月下旬我軍ノジャワ島攻略ニ依リ其ノ大部ハ撃滅スハ降
伏セリ。爾来海陸軍緊密ナル連繫ノ下ニ對印度洋、濠洲作戰ノ力
一線據点ヲラシムヘノ急進陸上設營根據地、充實整備ニ邁進シ速カ
ニ長期持久作戰ノ態勢ヲ確保スルノ外戦果ノ擡入ニ努ム

(二) 敵軍情勢

残存セル敵兵力ハ、ポートブライン方面ヲ基地トシ潜水艦ニ依ル我交通線
ノ破壊ニハ航空機ニ依リ、アンボン、クーパーバン方面ニ未だ襲撃シ戰意尚海ルベ
シラゲルノアリ

日任發編制配備

ふ

イ任務

(ウ) 爪哇海より印度洋ニ通ズル東西ノ水路ヲ控スルト共ニ速ニ航空基地ノ整備充實シ所在反軍航空部隊及陸軍ト協同シ主トシテ印度洋方面ニ對スル第一線據点ノ確保ニ任ズ

○(ロ) 所在陸軍部隊ト連繫ヲ密ニシ、スラバヤ、パタロヤニ方面海軍諸機關諸施設ノ進出開設ヲ促進シ前途根據地ノ整備擴充ニ努ム
(ハ) 速ニスラバヤ、パタロヤニ方面ノ閉塞水路ヲ啓開スルト共ニ沈船ノ急速處理、港灣施設ノ復旧ヲ促進ス

目標

務要の
その目的は
（その目的は）

日編制配備
部隊編制配備

至四月三十日										期間
隊艦面方合聯 隊艦道南南 隊艦道南南 隊艦道南南										區
隊艦道南南										分
百	九	八	七	六	五	四	三	二	一	隊
司令官										指揮官
司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官
第一港務部	第三一潜水艦基地隊	第三一通信隊	第三三航空隊	いくし丸	第一艦隊	第三艦隊	掃上掃上掃上	白鷹 辰宮丸	同	第三一特別機務隊
										兵力
										配備

1698

四) 軍隊區分

自四月六日 至四月三十日	自四月十日 至四月二十七日	自四月一日 至四月九日	期 間
隊部才南 隊部印東 隊部補警監介	隊部才南 隊部印東 隊部補警監介	隊部才南 隊部印東 隊部補警監介	區 分
A 2/109	A 2/109	A 2/109	指 揮 官
2/109 筑紫第一團 隊	2/109 (掃上掃上欠) 筑紫第一團 隊	2/109 (掃上掃上欠) 筑紫第一團 隊 (但之無鷗走區處之)	兵 力
同 右	同 右	將令外前任務續行	主 要 任 務

1699

4.

四 戦務

(1) スラバヤヲ本隊トシバタビヤニ派遣隊ヲクモス又ニ派遣隊ヲ置ク向本月下旬依命バ

島ニ派遣隊ヲ派シ各所在地域一帯ヲ警戒防衛ニ任ズ外對空對潜警戒ヲ嚴

シ不時ノ侵襲ニ備フ

(2) 根據地施設ノ急速整備ル實ニセカム

(3) 機密蘭印部隊命令等ニテ特別圖ニ依リ警隊担任警戒備區域ノ海上交通線

確保ニ任ズ

(4) 機密券ニ上特別根據地隊命令券ヲ以テ白鷹艦長ヲ掃海部隊指揮官ト

シスラバヤ西水路東ノヒリリグ砲台附近機密堰残部ニスラバヤ東水路ニスラ

バヤ西水路北ノ機密堰マヅラ島北側及南側ヲ掃海ヲ實施ス、是レ分機密

數一三九個

(5) 機密券ニ上特別命令券。即ち同券一八部ニ依リ、スラバヤ西水道東ノ掃海

路並ニ同西水道西ノ掃海水路ニ對シ航路標識ヲ設置ス

（一）等（港務部長ハ祐捷丸ヲ指揮シ、スヨバヤニ於ケル沈船調査及引揚（除去）
並ニ應急作業ヲ行ハシム

二人員ノ現状

（一）准士官以上職官氏名

職	主務	官	氏名	記事
司令官	首席	少將	久保九次	
参謀副長		中佐	若親龍三	
軍醫長兼 分隊長		醫中佐	松尾傳	
主計長兼 分隊長		主中佐	緑川留吉	
参謀	機開	機少佐	稻田領	四月一日附横領附
副官兼参謀	通信	少佐	木山早苗	

30

1701

71

四参考

(一) 麾下艦船部隊ノ行動(其一)

月	日	特根	同艦隊	白鷹	辰宮丸	第一艦	第二艦	第三艦
三〇	元			港ヤ	スラバヤ	スラバヤ	ンパーク	ンパーク
二九	八							
二八	六							
二七	五							
二六	四							
二五	三			ス				
二四	二			ヤ				
二三	一			バ				
二二	〇			ラ				
二一	九			ス				
二〇	八			ヤ				
一九	七			バ				
一八	六			ラ				
一七	五			ス				
一六	四			ヤ				
一五	三			バ				
一四	二			ラ				
一三	一			ス				
一二	〇			ヤ				
一一	九			バ				
一〇	八			ラ				
〇九	七			ス				
〇八	六			ヤ				
〇七	五			バ				
〇六	四			ラ				
〇五	三			ス				
〇四	二			ヤ				
〇三	一			バ				
〇二	〇			ラ				
〇一	九			ス				
	八			ヤ				
	七			バ				
	六			ラ				
	五			ス				
	四			ヤ				
	三			バ				
	二			ラ				
	一			ス				

月日	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	
くしま丸																															
掃十二																															
掃十一																															
掃八																															
三三																															
三十一通																															
三層基																															
一港																															
筑紫																															
一測																															

麾下船部隊行動(其ノ二)

第二十一師 戦密録

紙

自昭和十七年九月一日
至同 年九月三日

第二十一特別
根據地隊 戰時日誌

第二十一特別根據地隊司令部

自十七年五月

至十七年八月

日誌 未着ナリ

夕

1704

目次

一 経過

一 戦情勢 二 敵軍情勢 三 任務編制 配備

二 人員現狀

一 准士官以上職官氏名 二 下士官兵其他 三 麾下總員数

三 主要命令違報告口等

四 作戦経過概要

五 参考資料

麾下艦船、行動

一 経過

一 一般情勢

東印方面各地ニ対スル既定ハ完了シタルモ残存敵空軍ハ
豪州北部英領トミギヤ方面ヲ其地上ニテ蠢動シ頗ル威
固ニ在奔シ又潜水艦ヲ以テ我が制海圈内ニ交通保全ノ脅威
攪乱ヲ策シツアリ其ノ反攻意圖亦侮リ難キ現狀ニアリ當隊
ハ陸軍部隊ト協力南方要域ヲ確保スルト共ニ印度洋濠洲方
面進攻作戰ニ対スル策線據矣ノ整備擴充ヲ圖ル

二 任務 編制 配備

- 一 任務
 - ハ陸軍部隊ト緊密ナル連繫ヲ保持シ南方進攻作戰策線據
矣ノ確保ニ任ズ
 - ハ敵潜水艦徹底的掃蕩所要水路終開ヲ實施シ海上
交通保全ニ努ム
 - ハ敵偵利用ニ依ル敵情ノ偵知
 - ハ重要英艦資材蒐集下ニ圖ト共ニ根據地施設ノ急速
整備充實ニ努ム

自九月一日 至九月三十日	期間	南東部 南東部 南東部	区分	A 2/ABg	指揮官	2/ABg	兵力	(N812)	主要任務	一担任區域防備警戒 二海上交通保護
-----------------	----	-------------------	----	------------	-----	-------	----	--------	------	----------------------

四軍隊区分

自九月一日 至九月三十日	期間	南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部	区分	九 八 七 六 五 四 三 二 一	編隊	A 2/ABg	指揮官	南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部	兵力	南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部 南東部	配備
-----------------	----	--	----	---	----	------------	-----	--	----	--	----

編制配備

十七、九

五参考

鷹下艦船行動 (掃八掃十一久)

主	主	土	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月日
ラス		航単 海独		ケニタリ		護イ 任務カ		スラ ハヤ		一駆 着			
		任護 務イ		テリ		任 務イ		護 イ		二駆 着			
ラス		港 外				ヤハラ		ス		三駆 着			
馬 一		航単 海独		マニ ラ		航単 海独		タハ オ		掃 十二			

1708

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	十九	十八	十七	十六	十五	十四	
スラバヤ港 外路等 通手		ス バ ラ ス			海航			護 任 務 力 ケ リ 仲		ス ラ バ ヤ 西 水 道 北 口		ヤ ハ					
護 任 務 力		ヤ ハ ラ ス															
任 務 力		任 務 力			テ リ ー		ク ー パ ン		任 務 力		ヤ ハ						
渠 入							保 也 佐					航 單					
渠 航 五 第							標 浮 一 夕					海 独					

1709

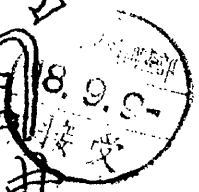
10.

第三十一特別根據地隊

自昭和十七年十月一日
至同 年十月三十一日

第三十一特別
根據地隊戰時日記

第三十一特別根據地隊司令部



1710

目次

一 経過

一 戦情勢 二 敵軍情勢 三 任務編制 配備

二 人員現狀

一 准士官以上職官氏名 二 下士官兵其他 三 麾下総員数

三 主要命令達報告等

四 作戦経過概要

五 参考

麾下艦船行動

一 經過

(一) 一般情勢

帝國東部方面海空制覇並ニアリニシテ進攻ニ依リ敵ハ其家州帝陸ヲ其地トシテ空軍及艦隊ヲ以テソノモトニ群島並ニフタタチノ前島方面ニ出撃シ海空ニ面テ我軍制海權内ノ交通線保全ヲ攬ルルシテ以テ根拠地挽回ニ往シアリ我軍ハ陸軍部隊ト協力構接海軍ヨリ備テ敵軍ト密ニ連絡シテ南西方面進攻ヲ根據地ニ整備強化シ圖リ持久能ハス執力ヲ確保ス

(二) 任務力 編制 配備

一 任務力
 一 担任 島嶼區域ノ防備並ニ我軍ヲ最ニ支軍トシテ連繫スルヲ保テ陸軍部隊ト協力構接並ニ印度洋方面進攻ヲ我軍根據地ニ確保シ在ス
 二 敵潛水艦 積極的攻勢ヲ保持シ實施シ海上交通ノ保全ヲ期ス
 三 根據地 施設ノ急速復旧整備ノ擴充ヲ圖リ持久能ハス執力ヲ確保ス

期間	編制	配備
区分	編制	配備
部隊	指揮官	兵
力		
		配備

口 編制 配備
 艦隊 編制 配備

至青三日	期	区分	指揮官	兵力	主要任務
至青一日	月				
隊部南 隊部東 隊部南					
A 21ABg					
11 ABg 12 8 次	兵				
一連三城 一連三城 一連三城					

之軍隊区分

至青三日							
至青一日							
隊部南 隊部東 隊部南							
隊部南 隊部東 隊部南							
A 21ABg							
九	八	七	六	五	四	三	一
A 21ABg							
第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長
第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長
第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長
第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長
第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長
第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長	第一艦隊長

五参考

上十
 麾下艦船行動(十月分) (掃八欠)

五	四	三	二	一	凡	八	七	六	五	四	三	二	一	月日
カ ツ カ マ				航 海				護 務		ハ ヤ		ス ラ		一 駆 替
ヤ バ ラ ス				護 務				マ カ ツ サ ル		妙 安 丸 と 相 定 する 佐 味		護 務		二 駆 替
任 務		護 務		ス ミ ハ ヤ		B 水路 警 備 員		ヤ ハ ラ ス				三 駆 替		
佐										平 原 第 一		掃 十 二		
										佐		掃 十 一		

三	三〇	九	八	又	六	五	四	三	二	二	〇	九	八	七	六
ヤバラス								任護 務イ	ウリマク海夫	任護 務イ	ル				
ス ラ バ ヤ		務 任 イ 護													
航 海	軍 艦	ア ン ホ ン	務 任 イ 護				ス ラ バ ヤ			航 海		軍 艦	ア ン ホ ン		
向 ヶ 務		ス ラ バ ヤ		保										在	
保													在		

1715

13



第三十特別根拠地隊

自昭和十七年十一月一日
至同十七年十二月三十一日

第三十特別根拠地隊戦時日誌

第三十特別根拠地隊



1716

目次

- 一 經過
- 二 人員現狀
- 三 主要命令達報告等
- 四 作戰經過概要
- 五 參考
麾下艦船行動

(終)

一 経過

(一) 一般情勢

壕洲布哇方面残存敵軍ハ、ワロモニ郡島印度洋各地ノ我軍攻撃
備手薄キ地矣ニ後襲及攻據莫確保ノ算ナシトシテ、印度洋
方面ニ着水艦ノ出没頻繁ニシテ、我が海上交通保全ノ攪乱ヲ企
圖スルモノ如シ當隊ハ陸軍部隊ト協力整備ノ万全ヲ期シ且
ツ壕洲作戰基地ノ確保並極力敵軍ヲ南西方面ニ牽制ス
ルニ任務編成配備

イ 任務

1. 但任整備区域ノ防備警戒ヲ嚴シ友軍トノ緊密ナル連絡ヲ保持シ壕洲作戰據点ノ確保ニ任ス
2. 敵着ノ徹底的撃滅ヲ期シ海上交通ノ保全ヲ期ス
3. 敵信利用ニ依リ敵情ノ偵知並ニ根據地施設ノ擴大整備ヲ圖ル

ロ 編成配備

- 1) 艦隊編成配備

至 十月 十日 白	自 十月 一日 白	期 間	至 十月 十日 白	自 十月 一日 白	期 間				
隊部西南 隊部印東 隊部備警部南	隊部西南 隊部印東 隊部備警部南	区 分	隊 隊 隊 隊	艇 艇 艇 艇	合 方 遺 特	南 西 南 一	茅 茅 茅 茅	区 分	編
A 21ABZ	A 21ABZ	指 揮 官	九 八 七 六 五 四 三 二 一			指 揮 官	成		
21ABZ (掃八艇)	21ABZ (掃八艇)	兵 力	一 部 長	三 二 部 長	三 通 司 令	九 三 部 長	一 一 部 長	一 一 部 長	指 揮 官
二海空交通保護	二海空交通保護	主 要 任 務	茅一 掃務部	茅二 掃務部	茅三 掃務部	茅九 掃務部	茅一 魚雷艇	茅二 魚雷艇	兵 力
									配 備

1719

14.

十七、十一

五

彦老

麾下艦船行動

(十一月分)

一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日
ヤバラス			航海		バタヤ		護		討		スラバヤ		スラバヤ	
ヤバラス													二艦	
向ヶ航海中		ヤバラス			航海中		護		ヤバラス		高		航海中	
世			ハ		航海中		マ		航海中		高		航海中	
世													掃	
													掃	

1720

二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一
			護イ任務	護イ任務	スラバヤ						スラバヤ	護イ任務	スラバヤ	護イ任務	スラバヤ	
			護イ任務	護イ任務	スラバヤ											
				航海中	バタビヤ			移動警戒	スニク海峡	バタビヤ		警戒	海峡移動	スニク		
			護イ任務	護イ任務	ケニタリ			水路掃海	スラバヤ	護イ任務	スラバヤ	スラバヤ	掃海	水路	スラバヤ	
					向ヶ回航											

軍事省大正朝本館自印

軍極秘

第三十特別根拠地隊第六號ノ九

自昭和十七年十一月一日
至同十七年十一月三日

十一月十八日提出



第三十特別根拠地隊戰時日誌

第三十特別根拠地隊

18: 9. 28
接交

1722

目次

- 一 經過
- 二 人員、現狀
- 三 主要命令、達報告等
- 四 作戰經過概要
- 五 參考
麾下艦船行動

(終)

1723

一 經過

(一) 一般情勢

東印方面勘定作戰終了後敵ハ布哇瓏洲ヲ基地トシ殘存空軍並ニ艦隊増強ヲ圖リ印度洋及英領ニエトヤ方面ニ反攻基地ヲ獲得ヲ企圖スルモノ如ク更ニ潜水艦ハ印度洋方面ニ頻繁ニ出沒我ガ海上交通保全ノ攪乱ヲ策シアリ當隊ハ陸軍部隊ト協力進攻作戰據点ノ確保充實ヲ計リ戰果ノ拡大ニ努ム

(二) 任務編成配備

イ 任務

(イ) 担任区域ノ防備警戒ヲ嚴ニシ隣接警備部隊ト緊密ナル連繫ヲ保持シ印度洋瓏洲方面進攻作戰據点ノ拡充強化ニ任ズ

(ロ) 敵潜水艦ノ徹底的掃蕩ヲ實施シ海上交通保全ヲ期ス

(ハ) 重要兵器資材ノ蒐集ニ努メ根據地施設ノ整備拡大ヲ計ル

(ニ) 敵信利用其他ノ方法ヨリ各種敵情ノ偵知ニ努ム

口 編成配備
(イ) 艦隊編成配備

	自 十二月一日	至 十二月五日	期間									
	聯南第 二第	合 方南	艦 面遣	艦 艦	隊	隊	隊	隊	隊	隊	区分	
	一 三	二 四	一 五	特 別	根 拠	地 隊	隊	隊	隊	隊	編	
二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	部隊番号	
A												指揮官
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	兵 力
一港務部長	第一港務部	第二港務部	第三港務部	第四港務部	第五港務部	第六港務部	第七港務部	第八港務部	第九港務部	第十港務部	第十一港務部	第十二港務部

海軍省式部局本館



第三十特別根拠地隊戦時日誌ノ一

昭和十八年一月一日
至同十八年一月三十一日
二月十八日提出

第三十特別根拠地隊戦時日誌

第三十特別根拠地隊

18.9.28
接受

1726

目次

- 一 經過
- 二 人員現狀
- 三 主要命令達報告等
- 四 作戰經過概要
- 五 參考
麾下艦船行動

(終)

一 経過

(一) 一般清勢

當南西部隊ハ敵ノ反攻ヲ予期シ陸軍部隊ト緊密ナル協力、下ニ南方要域ヲ確保スルト共ニ極力印度洋及壕洲方面進攻作戰第一線豫算ノ整備充實ヲ圖ル
本月下旬陸海軍部隊ハ「カヌカ」島及「フナ」地ニヨリ撤退ヲ完了ス

(二) 敵軍清勢

我軍ノ重圧下壕洲ニ躊躇セル敵ハ東印方面特ニ「モール」島ヨリ西部「ニキヤ」ニ至ル方面並ニ馬來方面ニ對シ反攻ヲ企圖シツル算ナリ大ナリ「ダーウ」ニ敵機集結ス前月ニ引續キ依然「トアル」「トホ」「アンボ」方面ニ敵機ノ襲撃頻繁ナリ敵艦又「ニキヤ」方面海域「ジャヴァ」海「バシラ」海ニ出没跳梁シ我が補給路ヲ遮断セントシナリ

(三) 任務 編制 配備

山當 南部警備部隊ハ所在陸軍部隊ト協同擔任區域ノ防備ヲ嚴シニ銳意ヲ練豫ス、確保整備任ズ
四 徹底的ニ敵情ヲ掃蕩撃滅シテ海上交通ヲ確保ス
四 警備擔任地域濠洲新西蘭及印度洋方面其ノ他敵國一般ニ對スル各種情報並ニ兵要資料ノ蒐集ニ努ム

19

										期 間	
										白 一月一日	
										至 一月三十日	
隊 艦 合 聯 隊 艦 面 方 西 南 隊 艦 遣 南 二 第 隊 地 據 根 別 特 一 十 二 第										編 分	
二 一 九 八 七 六 五 四 三 二 一										部 隊 番 号	
一 港 初 長 三 海 軍 基 地 長 三 海 軍 通 信 長 九 三 空 軍 通 信 長 特 務 艦 長 白 四 號 艦 長 白 一 號 艦 長 白 二 號 艦 長 W 八 號 艦 長 W 八 號 艦 長										指 揮 官	
第一海軍司令部 第三海軍基地隊 第三海軍通信隊 第九三海軍航空隊 第三四號 駆逐特務艦 第一號 魚雷艦 (一) 駆逐 (二) 駆逐 (三) 駆逐 (一) 掃 (二) 掃 (三) 掃 同 同 第三特別飛隊 シェルク分遣隊 第三海軍通信隊										制 兵 力	
										配 備	

(1) 編制 配備
 1 艦隊 編制 配備

1730

(四) 軍隊区分

至一月三十一日	自一月一日	期間
隊部 隊部 隊部	西南 印東 警部南	区分
A ----- 2/ABZ		指揮官
2/ABZ (V 8 欠)		兵力
二海上交通保護	一擔任區域防衛	主要任務

四 戦務

- (イ) 當隊ハ「スラバヤ」ヲ本隊トシ「ジャカルタ」ニ分遣隊ヲ設置シ「リスマス」島「マデオン」及「ジヨク」ジャカルタ」ニ各派遣隊ヲ「ケト」
「トリング」及「メラク」ニ各防衛支隊ヲ派ス 各隊特ニ「スラバヤ」
「ジャカルタ」所在部隊ハ防空対策ヲ最ニ不時ノ侵襲ニ備フ
- (ロ) 對濠洲作戰ヲ實施ス 「スラバヤ」「ジャカルタ」ハ艦艇用航空機用主補給基地トシテ之ガ整備充實ニ務ム
- (ハ) 機密東印部隊命令作第一號別圖ニ南遣艦隊電令作第一號依ル當隊擔任海域ニ於ケル通切ナル船舶護衛並ニ行動管制ニ依リ海上交通線ノ確保ヲ圖リ又遭難船舶ノ救護ニ任ズ
- (ニ) 通信謀報ヲ全幅活用シ敵艦船ノ動靜探知ニ務ム 尚和蘭海軍艦隊謀者ヲ利用ス
- (ホ) 第一卷務部長「ラッテ」スラバヤ運港敷設浮標設置ヲナシム

1732

(二) 人員ノ現状

一 在士官以上職官氏名

職	主務	官	氏名	記事
司令官	首席	中將	伍賀啓次郎	
參謀兼副長		中佐	若槻龍三	
軍医長兼分隊長		医少佐	岩崎巖	
空對長兼分隊長		空少佐	益井英太郎	
參謀	機關	大尉	鶴辰美	
隊附	參謀輔佐	予大尉	黒田孝夫	
隊附兼分隊長	水陸參謀科長	大尉	岸本曉	
同	分遣隊指揮官	同	澤田末雄	
同	道隊指揮官	同	海老原豊次	
同	本隊分隊長	同	橋高語市	
同		同	西園善助	

1733

21.

十一

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	月日
															一駆参
															二駆参
															三駆参
															掃十二
															一〇一勇
															二〇一勇特
															掃十一

五参考
麾下艦船行動

スラバヤ
敵艦要所

護衛任務

ヤ

バ

ラ

ス

スラバヤ

護衛任務

ク

パ

護衛任務

ス
バ
ラ

護衛任務

スパンク

護衛任務

スラバヤ

←

高麗丸
救難作業
金山丸
電報
者救助作業

航海中

護衛任務

スラバヤ

護衛任務

ヤ

バ

ラ

ス

護衛任務

スラバヤ

護衛任務

民島丸
救難作
業

護衛

バ
ラ
ヤ

港外

掃十一

1734

三八	三〇	三九	三八	三七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	一〇	九	八	七	六
護 務 任 務		ヤ	バ	ラ	ス	向 テ 航 海 中 小 ロ ン 不 島									
護 務 任 務	ア ニ ホ ン					務 任 衛	敵 寇 攻 撃	護		ヤ	バ	ラ	ス		敵 寇 攻 撃
所 近 敵 寇 攻 撃	打 割 掃 蕪 マ ン リ ハ ン ト 灯 台	護 務 任 務	バ ラ ク パ ン	バ ラ ク パ ン	護 務 任 務				ヤ	バ	ラ	ス		敵 寇 攻 撃	港 外 対 敵 攻 撃
		ヤ	バ	ラ	ス				務 任 衛	護				ア ニ ホ ン	
ヤ	バ	ラ	ス				港 外 防 衛	ス ラ バ ヤ	ス ラ バ ヤ	港 外 防 衛	ス ラ バ ヤ	港 外 防 衛	ス ラ バ ヤ	港 外 防 衛	
		ヤ	バ	ラ	ス				港 外 防 衛	ス ラ バ ヤ	港 外 防 衛	ス ラ バ ヤ	港 外 防 衛	ス ラ バ ヤ	
		ヤ	バ	ラ	ス				務 任 衛	護					

1735

20

海軍省印刷局代印

軍極秘

第三十特別根拠地隊第六卷ノ二

昭和十八年二月一日
至同十八年二月二十八日
二月二十八日出版

第三十特別根拠地隊戰時日誌

第三十特別根拠地隊

11月
18.9.28

1736

目次

- 一 經過
- 二 人員、現狀
- 三 主要命令、達報告等
- 四 作戰經過概要
- 五 參考
麾下艦船行動

(終)

1737

一 経過

(一) 一般情勢

當南西部隊ハ敵ノ反攻ヲ陸軍部隊ト協力隣接整備部隊ト緊密ナル連繫ヲ保持シ印度洋豫洲方面進攻作戰ニ対スル第一線據点ノ確保並ニ整備擴大強化ヲ圖リ月下旬乃至二月下旬ノカ島作戰ニ関聯シ敵信利用或ハ海空兵力ノ機動依リ極力敵ヲ南西方面ニ牽制ス

(二) 敵軍ノ情勢

我が軍ノ重圧下豫洲ニ蹙退セル敵ハ東印方面特ニ「チモール」島ヨリ西部「エーギヤ」ニ直ル方面並ニ馬來方面ニ對シ反攻ヲ企圖シツアル算大ナリ
本月「アムボン」「トアル」「トボ」「タニバル」諸島方面ニ敵機ノ來襲頻繁ニシテ敵機又「アムボン」始メ東印方面海域ニ出没跳梁シ極力我交通線ヲ破壊セントシツアリ

(三) 任務編制 配備

1. 任務

- (1) 當南部警備部隊ハ所在陸軍部隊ト協力シ擔任區域
防備ヲ嚴シ以テ第一線據點ノ確保整備ニ任ズルト共ニ
對壕洲作戰ヲ實施ス
- (2) 積極的且徹底的ニ敵軍掃蕩擊滅ヲシ我ガ海上交通ヲ
確保ス
- (3) 警備擔任地域壕洲 新西蘭及印度洋方面其他敵國
一般ニ對スル各種情報並ニ兵要資料ノ蒐集ニ努ム

1739

24.

至二月三日											白	二月四日	期間	
隊 艦 隊 隊 隊 隊 隊 隊 隊 隊 隊											合 方 南 一	西 二 十	聯 南 茅 茅	區 分 編
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	部 署		
一港部長	三三司令	三三司令	九三三司令	時公艦長	艦長	艦長	艦長	艦長	艦長	艦長	艦長	指揮官		
第一港務部	第三三艦基地隊	第三三海軍通信隊	第九三三海軍航空隊	第一〇四號駆警特公艦	第一〇二號雷艦	第一〇二號雷艦	第一〇二號雷艦	第一〇二號雷艦	第一〇二號雷艦	第一〇二號雷艦	第一〇二號雷艦	兵 力		
												配 備		

口 編制配備
艦隊編制配備

1740

(10) 軍隊区分

至 三月十五日	自 二月一日	期 間
隊部西南 隊部印東 隊部備警部南	区 分	
A 2/ABJ		指 揮 官
2/ABJ (IV 8 欠)		兵 力
二海上交通保護 一擔任區域防備警戒		主 要 任 務

1741

四 戦務

- (イ) 當隊ハ「スラバヤ」ヲ本隊トシ「ジャカルタ」ニ分遣隊ヲ設置シ「クリスマス」島「マデオン」及「ビヨク」レマカクタ「ニ各派遣隊ヲ「ケドニ」「ヒーリ」グ「マ」ヲク「ニ各防備支隊ヲ派ス 各隊特ニ「スラバヤ」「ジャカルタ」所在部隊ハ村空村浅警戒ヲ嚴シ不時ノ侵襲ニ備フ
- (ロ) 村濠洲作戦ヲ實施ス「スラバヤ」「ジャカルタ」ハ艦艇用航空機用主補給基地トシテモガ整備充實ニ務ム
- (ハ) 機密東印部隊命令作第一號別圖 二南遣艦隊電令作第一號ニ依ル當隊擔任海域ニ於ケル適切ナル船舶護衛ニ依リテ海上交通線ノ確保ヲ圖リ又遭難船舶ノ救援ニ任ズ
- (ニ) 通信諜報ヲ全幅活用シ敵艦船ノ動靜探知ニ務ム
- (ホ) 「ジャバ」方面ノ沈船處理ニ関シ第士特別工作部長ニ協カス
- (フ) 二月八日より第一港務部長ヲシテ小掃海没イテ大掃海ニ依リ「スラバヤ」西水道東掃海水路ノ啓開ヲナサレム

二 人員ノ現状
 (一) 準士官以上職官氏名

職	主務	官	氏名	記事
司令官		中將	伍賀啓次郎	
參謀兼副長	首席	中佐	若槻龍三	
軍區長兼分隊長		少佐	山嶺崎巖	
主計長兼分隊長		少佐	益井莫太郎	
參謀	機要	大尉	鶴辰美	
隊附	幕僚補佐	大尉	黒田孝雄	
隊附兼分隊長	陸警科長	大尉	岸本曉	二月二十六日退隊赴任
同	分遣隊指揮官	同	澤田末雄	
同	分遣隊指揮官	同	海老原豊次	
同	本隊分隊長	同	福高詔市	二月十九日退隊赴任
同	同	同	吉本勝喜	二月十一日着任
同	分遣隊指揮官	同	鮫島源三	二月十八日着任

26.

十一
五参考 麾下船行動(三月)

月日	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
一 駈登	護 任	護 任	護 任	ス	ラ	バ	ヤ	護 任	護 任	ス	ス	ス
二 駈登	護 任	護 任	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス
三 駈登	護 任	護 任	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス
稀十二	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス
百一 奥	港 外	港 外	港 外	港 外	港 外	港 外	港 外	港 外	港 外	港 外	港 外	港 外
百四 駈特	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス

1744

二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四
護任務	バ ボ	護任務	ア ン ボ ン	務任			敵 意 先 手	イ 護	ヤ	バ	ラ	ス	ス ラ バ ヤ 水 道	
ス ラ バ ヤ		ヤ	バ カ ン	ラ ヤ	ラ ヤ 外 港	ス ヤ	バ ス ラ	バ ス ラ			任 務	護 イ		
	護任務	バ カ ン	任 務	護 イ	任 務	バ カ ン	護任務	バ カ ン	バ カ ン	バ カ ン	任 務	パ ン	バ カ ン	
任 務	護 イ	ケ ホ ラ 湾	ラ ヤ ン	哨 戒	移 動	ラ ヤ ン	ケ ホ ン	ケ ホ ン	ケ ホ ン	ケ ホ ン	ケ ホ ン	ケ ホ ン	ケ ホ ン	任 務
渠 入 ヤ バ ラ ス														
		ヤ	バ	ラ	ス	ス	ス	ス	水 路 橋 等	村 島 等	ス ラ バ ヤ	護 任 務	バ カ ン	